

お茶の井

東求堂の上の小高い丘に、湧き水が流れ込む小さな水たまりがあります。お茶の井という名称にはお茶の井戸という意味があります。

このお茶の井は、つくばいの原型と言われています。つくばいとは通常お茶室の近くにある周りに石を配した、石でできた鉢のことを指し、客が手や口を濯ぎ清めるためにあります。水たまりに溜まった水は、慎重に配置された石の上を滴り落ち、錦鏡池に流れ込みます。かつてはお茶の井近くの丘に小さな竹の別荘、漱蘚亭が建っていたとされています。